

古代までの日本 | 日本の古代国家の形成

1 単元の概要

中国や朝鮮半島において国家が統一されていく中で、海という「路」を通じて日本とそれらの地域とのつながりが飛躍的に強まりました。特に、渡来人は、金属加工などの技術を伝えるだけでなく、朝廷での財政や政治にもたずさわると、日本の政治や文化に大きな影響を与えました。それらの様子を学ぶことにより日本が中国や朝鮮半島から大きな影響を受け、国家が形成されていったことを理解します。旧石器時代から古墳時代までの様々な出土品を基に、それぞれの時代のものと比較しながら、古代国家が形成されていった様子を学習していきましょう。

2 学習のねらいと手だて

- 古墳の広まりから、大和王権という古代国家が形成されていく過程を理解させる。
- 古墳や副飾品・土器や須恵器を基に渡来人の果たした役割に着目させるようにする。また、縄文・弥生土器と須恵器について比較させながらその違いを考え、小グループで意見交換し、自分の考えをまとめさせる活動を設定する。



天観寺山古窯跡群

3 指導計画（総時数 5 時間）

学習活動と内容	○指導・支援上の留意点 ◆展示物など	時間
I 古墳時代の社会の様子について調べる。 ① 巨大な墓・副飾品 ② 大王と豪族 ③ 古墳時代の人々の暮らし	◆ 「古墳時代パネル」を見て古墳についての興味・関心を高めさせる。 ◆ 「古墳分布図」を見て、古墳の分布について調べ、北九州周辺に前方後円墳が現れてきた時期を考えさせる。 ○ 鉄製鋤・鋤先等を見て鉄製農具の広まりに気づかせる。	1 時間
II 大和王権の成立と渡来人の果たした役割についてまとめる。 ① 5世紀ごろの東アジア ② 地域に残る渡来人の足跡を調べる。	○ 渡来人のもたらした文物や技術についてまとめさせる。	1 時間
III 渡来人がもたらした大陸の進んだ技術や文化の特色を調べる。 ① 古墳の中に入ってその様子を体感する。 ② 須恵器とそれ以前の土器を比較する。	博物館での学習 ◆ 日明一本松塚古墳石室模型に入る。 ○ 展示物で縄文土器・弥生土器・須恵器を確認し、その違いを体感させる。 ◆ 土器パズル「土器をつくってみよう」	1 時間
IV 東アジアの統一国家とわが国の政治への影響について考える。 ① 中国・朝鮮の統一 ② 蘇我氏と聖徳太子	◆ 「仏教文化の伝来と寺院瓦」パネル ◆ 鬼瓦 ◆ グラフィック「法隆寺五重塔の高さ」	1 時間
V 律令国家の仕組みについて調べる。 ① 大化の改新 ② 大王から天皇へ	◆ 「律令国家の成立」パネル ◆ 「官人と文字」パネル ◆ 奈良時代の土器・墨入れ・木簡	1 時間

4 学習展開例（1時間扱い）

学習活動	○指導・支援上の留意点	◆展示物など
1 古墳の中に入って内部を調べてみよう。		
I 展示映像を視聴して、この単元の概要を理解する。	○ 展示映像の説明を聞いて、古代のわが国と大陸との交流について思い出させる。 ○ 国内での交流も確認させる。	博物館での学習 1 時間 ◆ 展示映像「路—北九州の人々の歩みと交流」 ◆ 展示映像「海を渡ってきた文物」 ◆ 朝鮮半島との交流 無文土器 有柄式磨製石剣 ◆ 中国大陸との交流 五銖銭 内行花文鏡 ◆ 国内での交流 手焙形土器 ヒスイ勾玉 日明一本松塚古墳 石室模型 日明一本松塚古墳 副葬品 古墳分布図パネル
II 古墳の構造を調べ、内部を探検する。	○ 実物大の大きさを体感するとともに、内部の様子（壁画や石棺の様子等）にも着目させる。	
III 地域の古墳群について調べる	○ 副葬品や古墳分布図パネルから、各地に有力者が現れ人々を支配するようになったことに気付かせる。	
2 須恵器とそれ以前との土器を比べてみよう。		
I 朝鮮半島の陶質土器と古墳時代の須恵器（倭風の陶質土器）を比べる。	○ 類似点に着目させ、文化の伝承に気付かせる。	◆ 5世紀の朝鮮半島の陶質土器 ◆ 古墳時代の須恵器 ◆ 天観寺山古窯跡群パネル ◆ 天観寺山古窯跡群ジオラマ ◆ 「土器パズル」（縄文・弥生土器）
II 須恵器をつくる技術について調べる。	○ のぼり窯の技術についてその工夫を考えさせ、それを伝えた渡来人の存在に気付かせる。	
III ハンズオンテーブルを利用して縄文土器・弥生土器・須恵器の特徴を話し合う。	○ 縄文土器・弥生土器と、渡来人のもたらした須恵器との違いに着目させ、特徴をまとめさせる。	
IV 渡来人のもたらした文物について確認する。	○ 教室での学習内容を復習・確認させる。	

5 博物館での学習

博物館の展示物を見て、触って、体感し、渡来人のもたらした文物について理解を深めよう

古代の日本は大陸からの影響を強く受けていました。古墳時代は大陸から日本にわたってきた渡来人たちによって大陸の文化が日本に入ってきました。また、飛鳥時代や奈良時代には、隋や唐の高度な文化を求め、多くの使者や留学生・留学僧が危険を顧みず、大海を渡り、多くの文物を取り入れました。テーマ館にある復元された装飾古墳の石室に入ったり、ハンズオンコーナーで土器の復元にチャレンジしたりするなど古代の文化や人々の生活の様子を体感してみましょう。

1 古墳の中に入って内部を調べてみよう。

石室奥壁は幅 2.1 m 高さ 2.5m の花崗岩の一枚岩を使用し、そこに装飾模様を施している。その模様はベンガラ^{*1}による赤色を放射線状に 10 本あしらったもので装飾古墳として価値が高い。

※1：ベンガラ…酸化第二鉄を主成分とする無機赤色顔料の一種



日明一本松塚古墳石室模型



日明一本松塚古墳模型内部

2 縄文時代との違いについて考えよう。

◎ ハンズオンコーナー



POINT 「土器をつくってみよう」

縄文土器・弥生土器の破片を組み合わせて完成させながら土器に触れ、土器の特徴を調べることができる。

◎ 日明一本松塚古墳副葬品



POINT 須恵器脚付短頸広口壺

写真の須恵器は、古墳時代後期(6世紀末)のもの。縄文土器や弥生土器と須恵器の厚み・堅さ・形の違いがわかる。

1 古墳について調べよう。

(1) 古墳について、また内部の様子などについて分かったことをまとめよう!



日明一本松塚古墳石室模型



副葬品(鏡)

(2) 古墳がつくられた理由を考えてみよう!

- ・大きな墓を作ることにより死後も自分の力を示すため。
- ※ 自分の死後も権力を誇示するためという考えもあるが、民が積極的に墓づくりに参加したという考え方もある。

(3) 古墳に埋葬された人々を副葬品や古墳の作り方から想像してみよう!

- ・地域を治めた有力者(豪族) ・身分の高い人 など
- ※ 古墳から見つかった副葬品からどのような人が葬られたかを考えることができる記述があれば、さらによい。

2 須恵器と土器の発達について調べよう。

(1) 縄文土器や弥生土器と比べて須恵器にはどのような特徴がありますか。テーマ館の展示やハンズオンコーナーの土器片を観察してまとめましょう。

	縄文土器	弥生土器	須恵器
土器			
色	黒褐色・赤褐色など	赤茶・茶色・こげ茶など	灰色
文様	・縄目の模様や、貝や竹による条痕・圧痕	・簡略なものが多い。	・ないものが多い。 ・同心円文が見られる。
器形	・深い鉢状のものが、多い。	・かめ、壺、高坏など色々な形の土器が見られる。	・壺、瓶、甕、鉢、杯(つき)(坏)、高杯(たかつき)、樹(はそう・皿など器の種類が多様性に富んでいる。
厚さ	・全般的に厚手	・全般的に薄手	・厚さは薄く均一
手触り	・ざらざらした感じ	・やや、ざらついた感じ	・滑らかで硬い感じ

※実際に土器片を見たり、触ったりさせて特徴をつかませるとよい。

(2) 渡来人は、日本にどのようなことを伝えたのだろうか。

- 朝鮮半島からの渡来人たちによって
- 須恵器やのぼり窯の技術
- 土木、建築、金属加工の技術
- 漢字や仏教、儒教などが伝えられた。